



Polaris news

【北高ニュース NO.202201】

「SDGs 時代のお化けやしき」 美術部 市橋波奈さんがキャラクターデザイナーとしてデビュー (2022.4.4)

ハチカグ(株)からの依頼により、栗山圭介さん(作家)プロデュースの「SDGs 時代のお化けやしき」企画に美術部の2C 市橋波奈さんがキャラクターデザイナーとして参加し中日新聞の取材を受けました。デザインしたキャラクターは名古屋学芸大学メディア造形学部デザイン学科の皆さんの制作により、お化けやしきの立体キャラクターとなるほか、来場者に配られるお化けずかんやクッキーなどにも使用されます。またこの企画は今後、絵本などにも展開されていく予定です。

中 日 新 聞 2022年(令和4年)4月4日(月曜日) 市 愛 知 10

17種のお化け 人に物申す

持続可能な開発目標 (SDGs) をお化け屋敷仕立てで楽しく分かりやすく。国連で採択された17の目標をモチーフにしたイベントが5月8日まで、犬山市の名鉄犬山駅構内のレンタルスペース「いぬやまハチ公園」で開かれている。高校生や大学生がお化けをデザイン、制作した。



SDGsをテーマに、プラスチックやビニールのごみを使った展示などが並ぶお化け屋敷=犬山市で

犬山で催し「SDGs考えよう」高校生ら制作

SDGsは、二〇三〇年の世界のあるべき姿を示した目標。子どもにも分かりやすく考えるきっかけを作ろうと、作家でクリエイティブディレクターの栗山圭介さんが監修した。参加者は、人間の持続可能でない暮らしで痛めつけられた地球から生まれた、お化けたちの巣窟に入る設定。自然破壊に怒った木のお化けなど、独創的な十七種類が登場する。帰宅後にゆっくり復習してもらえよう、栗山さんがお土産の図鑑を書き下ろした。お化けのデザインは北高

校(名古屋市)二年の美術部員、市橋波奈さん(こ)が考案。お化けの制作や約百八十平方メートルの会場づくりを、名古屋学芸大(日進市)の学生約三十人が手がけた。同メディア造形学部三年の阿田朱莉那さん(こ)は「空間の広さを生かしたい」。市橋さんは度重なる修正で仕上げたお化けが「いろいろな人の力で形になりすてき。多くの人に見てほしい」と話す。栗山さんは「特に子どもに対しては、怖い思いをすけることで『うなづちやいやないよ』というメッセージになる」と意図を明かす。大人も「自分ならどうするか考えるきっかけにできれば」と願う。お化け屋敷は「シーズンの今夏に再度開くことが目標で「犬山の風物詩にできたら」と構想を膨らませる。お土産付きで大人千円、小学生五百円。午前十時、午後六時で、火曜休み。いぬやまハチ公園 0568(48)8566

